

# 全国協議会 ニュース

2023年8月1日発行 第372号

発行所：特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会  
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階  
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365  
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和（会長）  
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

## 梅田正造 新理事長挨拶

2023年7月1日付で理事長に就任しました梅田正造<sup>しょうぞう</sup>です。これまで副理事長として3期6年間、事務局所管、東京マラソン、ホームページ(HP)、協議会ニュース等を担当して、規則・マニュアルの整備、東京マラソンチャリティの寄付先団体としての採用実現と運営、HPの全面改訂、ニュースの編集を担当してきました。

7月16日(日)に新体制初の理事会を事務局で開催しました(写真参照)。理事会では各理事の役割分担を決めました。私が所管していた大きな業務の一つに東京マラソンの実行委員長があります。この業務は山崎理事に引き継ぎました。ちょうど「東京マラソン2024」のチャリティランナーの受付が、6月26日(月)から7月13日(木)にあり、全国協議会にご寄付くださったランナーは、国内外に多数いらっしゃいました。委員会メンバーを統率して東京マラソン2024を盛り上げ、ランナーの方たちとのコミュニケーションを深め、気持ち良く走っていただくこと、そして東京マラソン2025以降もまた参加したいと思っただけのように運営するのが実行委員長の重要な仕事です。

私は東京都出身ですが、就職した会社の工場が千葉県にあったことから千葉に住むことになりました。同じ職場の方が幼い娘さんを白血病で亡くされた経験から、血液疾患の患者さんを救おうとボランティア団体千葉骨髄バンク推進連絡会(千葉の会)を1991年2月に設立されました。そして骨髄バンク設立運動を開始し、県内各地でシンポジウムを開催していました。私は、シンポジウムの一つに参加したことをきっかけに、千葉の会に同年8月に入会しました。骨髄バンク設立活動は全国の同じ目的を持った仲間(全国骨髄バンク推進連絡協議会設立に携わった皆さん)



第12期 理事会メンバー(前列左から3人目が梅田正造理事長)

の活動とも相まって国を動かし、骨髄移植推進財団(現日本骨髄バンク)が同年12月に設立されました。財団は翌年1992年1月からドナー登録を開始しましたので、私はすぐに登録しました。幸いなことに1995年冬にドナーになりました。私が骨髄液を差し上げた患者さんは幼児で、ご両親から元気になったとのお手紙を頂きました。この手紙は今でも大切な宝物になっています。千葉の会では1995年5月に会長に就任して今日に至っています。

財団ができた後の千葉の会は、骨髄バンクの普及啓発活動、献血併行型登録会開催(特に東京モーターショーの登録会は関東近辺の全国協議会の皆さんの応援を頂きました)、イベント開催、医療講演会・相談会等の活動を行ってきました。全国協議会にも常に役員を派遣して運営の一端を担ってきました。

私自身も2017年12月に会社を完全退社することが決まっていたことから、全国協議会から自ら理事になることを要請され、2017年5月の役員選考時に公募で候補し、7月から理事に就任、副理事長に選任されました。以降3期6年副理事長を務め、この7月1日から理事長に就任したわけです。

これからは理事長として各地の正会員の皆様、各地団体の皆様との交流を更に深め、献血併行型登録会支援にも力を入れて参りますので、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

理事長 梅田 正造

## 山本雅也さん全国協議会 公式アンバサダーに就任



### 【山本雅也さんプロフィール】

1981年生まれ、青森県出身  
2012年 デビュー  
2014年より 日本骨髄バンク普及大使として音楽活動によりドナー登録普及を発信  
2023年1月18日 テイチクエンタテインメントよりメジャーデビュー  
『青色の航海〜君に捧げる応援歌〜』は映画『いちばん逢いたいひと』のテーマソング

2023全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京にご登壇いただいた、シンガーソングライターの山本雅也さんが全国協議会の公式アンバサダーに就任しました。これまでも全国各地でのコンサートなどで骨髄バンクの普及にご尽力されてきました。これからは今までになかった切り口でドナー登録推進を全国のボランティアの皆さんと一緒に進めてまいります。

### 骨髄バンクの最新情報をお知らせする

## 骨髄バンク NOW

〈MONTHLY JMDF(7月14日発行)より抜粋〉

### ■日本骨髄バンクの現状(2023年6月末現在)

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

	5月	6月	現在数	累計数	
ドナー登録者数	2,772	2,948	546,679	931,045	
患者登録者数	179	192	1,685	66,894	
採取数	骨髄	68	72	—	25,942
	末梢血幹細胞	28	37	—	1,937
合計	96	109	—	27,879	

### ■6月の区別ドナー登録者数

献血ルーム/665人、献血併行型集団登録会/2,227人、集団登録会/10人、その他/46人

### ■6月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,527人/20代 88,994人/30代 135,453人  
40代 215,770人/50代 101,935人

### ■6月の20歳未満の登録者465人

### ■6月末までの末梢血幹細胞採取累計数:

1,884件(国内ドナー→国内患者)

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

### 全国協議会 第12期新任役員を紹介



さいとう ちあき  
齊藤千秋

この度、新たに理事に就任させていただきました、北海道帯広市の齊藤千秋と申します。骨髓バンクとの関わりは、30年前にドナー登録をしたのが始まりです。登録から半年程で適合の連絡が届き、翌年に骨髓提供を行いました。あつという間の展開に「骨髓提供だけが目的じゃなかったよな」と思いつつ、「やっぱりこれで終わるのは心残り」と2001年に北海道協会北見支部に入会したの

がボランティア活動との関わり始めでした。転勤を伴う仕事柄、道内各地を異動し途切れ途切れですが活動を続けながら現在に至っています。全国協議会の仕事は初めてで、これまでに大きなボランティア活動の実績もありませんが、色々学び、皆様のお力を借りながら地方のボランティア組織や患者支援の様々な課題に対して取り組んでまいります。よろしくお願ひいたします。



さいとう たみお  
佐藤民雄

この度全国協議会の理事に就任させて頂きました、佐藤民雄と申します。宮城県に住んでおりますが、現在は骨髓バンクを支援するやまがたの会で、説明員として20年以上活動しております。

自分がこの活動を始めたきっかけですが、元々献血が趣味で、ルームで「チャンス」を目にし骨髓バンクの事を知って興味を持ちドナー登録しました。その後何年と適合通知が来ない中で、他に何か出来る事はないかと考え、日本骨髓バンク NEWS でボランティア募集してい

る事は知っていたので、思い切ってやってみる事にしました。その時背中を押してくれたのが、ある元患者さんの新聞記事を見たのが大きかったです。そんな中2011年の1月に念願の適合通知がきまして、確認検査まで進んだのですが、3月11日の東日本大震災によりコーディネート中止になった事が凄く心残りです。

何分至らぬ点も有りますが、全国のボランティアの皆さんと共に一生懸命頑張っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。



すずき しげのぶ  
鈴木敏生

理事を仰せつかりました鈴木敏生です。岐阜県在住で「岐阜県骨髓献血希望者を募る会」と「あいち骨髓バンクを支援する会」に所属させていただいております。

私は製薬会社に勤務し白血病治療薬を扱っていらしたので骨髓移植の必要性は理解していたつもりでした。しかし、ボランティアに参加し患者会の方と接し、単に血液疾患のみでなく想像もしなかった様々な苦悩と関わっていた

ことを知りました。また、私の骨髓を移植したわけでもない患者さんから何故お礼を言われるのか、驚きもしました。前述の「骨髓移植の必要性を理解していた」とは何を分かっていたのか、今では恥ずかしい限りです。骨髓提供後に参加したボランティア活動で人生が変わりました。

微力ですが、一人でも多くの患者さんが移植を受けられるよう尽力したく、関係各位のご指導をお願ひ申し上げます。



なかむら ぶくよ  
中村福代

再び理事として参加するところになった宮崎の中村です。みやざきの会は今秋に設立20周年を迎えます。当初より協議会には加盟し、5周年の年には本会がホストとなりボランティアの集い in 都城を開催しました。その頃のメンバーの年齢層は30代や40代がメインで家族も一緒に参加し盛んな活動の日々で活き活きとしておりました。20年経った今でも活き活きとはしていますが、私も含め、ボランティアに費やす時間がなくなりつつある現状がありま

す。そんな中でボランティアの在り方を考えるようになりました。今回、理事として協議会に参加しますが、前向きにこのような問題に取り組んでいけたらと思っております。『大変だ』と、言いながら活動をするのはやめたいですね。ボランティアですからやるならその過程も楽しまなくては良いエネルギーは湧いてこないです。こちら1期2年の任期をも楽しみたいとおもっています。宜しくお願ひいたします。



かわした つとむ  
川下 勉

新理事に就任させて頂きました川下です。光栄にも田中前理事長に背中を押して頂き公募理事に立候補した結果で、責任の重さを痛感している次第です。

26年前に骨髓バンクを介して当時の提供リミット45歳で骨髓移植を受けました。ボランティアの集いでドナーと患者との対面について話す機会を頂きましたが、3回目の手紙が出せるようになることを切望します。今でも完治したお礼が言えていない事を「人生の大きな忘れ物」として悔いてい

ます。そんな方が1人でも減る様に、移植後に体調が落ちていた状態(概ね10年前後)で、3回目の手紙が出せたらと思ひます。骨髓バンクからのアンケートを同封し、患者は対面を希望していますがドナーさんは如何ですかと問い、両者が対面を希望する場合にのみ、対面可となると良いと思ひます。少しでもご恩返ししがたく取り組みますので、宜しくお願ひ致します。



かさはら けいいち  
笠原慶一

この度、監事に選任されました埼玉骨髓バンク推進連絡会の笠原です。

私は、1988年2月に都内で開かれた骨髓バンクの実現を求めるシンポジウムに参加し、その縁で翌89年の2月にドナー体験をし、以来、埼玉の会と全国協議会の発足やその後の運営にかかわってきました。

これまで、色々な役割に就いてきましたが、監事とい

う職務は初めてです。

定款によれば、監事の職務は、理事の業務執行と会の財産状況を監査する、とあります。

先輩監事の黒部さんに学びながら、全国協議会の活動が一層前進するよう、定款に基づいて監査し、必要な意見を述べるよう努めたいと思ひます。

どうぞよろしくお願ひ致します。



**ブロックセミナー開催「骨髄バンクドナー登録者数低迷をどうとらえるか」**



全国協議会では地域ごとに「ブロックセミナー」を開催し、全国各地でボランティア活動を行っているグループに呼びかけ、各地区での活動状況の報告や意見交換等を行っています。今回は6月18日(日)に開催された近畿ブロックの様子をお伝えします。

骨髄バンクの実態は、直近の28カ月間、全国47都道府県のうち平均23のデータセンターでドナー登録者が減少し続けているという危機的状況です。その傾向はコロナ禍に原因を求めただけで済むレベルではないと感じています。また、振り返ってみるとドナー登録者数30万人を達成した2008年の骨髄採取件数は1,105件でした。そして2013年の1,360件をピークにじりじりと減り続け、15年経ちドナー登録が54万人となった、2022年の造血幹細胞採取件数は1,069件とドナープールの拡大が移植に寄与していないという現実を私たちボランティアはどう理解すればいいのでしょうか。

このセミナーでは、ドナー登録に関わる人たちが、それぞれの気持ちをぶつけあって、いま本当に私たちがやらないといけないことは何なのかを一緒に探っていきたくて企画しました。当日は30名を超す各地のボランティアが会場に集まって下さいました。

基調講演では日本赤十字社近畿ブロック血液センター 副所長木村貴文先生から『助けて!』を多くの人に伝える」と題して、高齢化が進む社会で、これまでのドナーリクルートから一歩踏み出して、いろいろな方法で若年層に働きかける事の重要性が、AI、ChatGPTなどの話題を交えて問題提起されました。

パネルディスカッションでは、ドナー経験者、患者家族からそれぞれが感じている課題などについて議論が繰り広げられました。

全国協議会の報告では、田中理事長より活動の原点であるドナー登録促進にもういちど力を注ぐための施策実施への説明がありました。

意見交換では、小グループで全員がドナー登録活動の課題をどのように感じているかという点から始まり、どのように活動を展開していくのかという一つのテーマについて忌憚のない意見を交換することができました。

発言時間を区切って順に話をする、それをグループメンバー全員がきちんと聞く、途中でグループをシャッフルするというワールドカフェ方式には戸惑いもあったようでしたが、参加者全員に均等に話す機会を持っていただくことができ、これまでになかった意見交換ができたものと思います。

(関西骨髄バンク推進協会 井上清孝)

**骨髄バンクチャリティー麻雀大会 in 仙台に参加して**

7月9日(日)に仙台市泉区の健康マージャンサロン「杜の都」で開催された、骨髄バンクチャリティー麻雀大会でのPR活動に参加させていただきました。6月に全国協議会の山口明大理事より「大会の合間に骨髄バンクの説明と、宮城の団体の活動内容等をお話してください」との依頼がありました。お話を伺った時は(麻雀大会でバンクのPR?)と思いましたが、山口理事自身骨髄移植を経験されており、プロ雀士で、「参加される方は骨髄バンクの事を知らない方が多いので、地元の団体の方にご協力いただいているんです」というお話を伺い喜んでお受け致しました。

当日は約50名の方が大会に参加され、皆さんが麻雀をされている姿からかなりの熱気を感じ、(この様な状況でお話を聞いていただけるのか?)と、思いました。休憩時間になり、山口理事の司会で研修に入りました。最初に、地元宮城出身の佐藤より骨髄バンクの概要を説明し、骨髄バンクを支援する

宮城I・O・K代表の大友文司氏のお話では冒頭「血はどこで造られているか分かりますか?」との質問に心臓と答えられた方も多く、(やはり知らないというイメージなんだなあ)と思いました。骨髄移植する際にHLAが一致しないと移植できないのですが、HLAは血液型と違って相当数の組み合わせがあるために他人とは中々一致しないということも皆さん知らない様でした。最後に宮城では2カ所の献血ルームで随時受付、各団体のHPで登録会についてお知らせしておりますとお話しされました。

研修中は皆さん真剣にお話を聴いていただき、質問もたくさんあり、「輸血を受けた人は登録出来るんですか?」「何で55歳以上はダメなの!上と掛け合ってよ!」とおっしゃられた方もおり、それだけ真剣に考えていただいているのだとうれしく思いました。

献血併行型登録会だけでなく、普及啓発活動も重要だと考え、県内の石巻地区では6月にはいのちの輝き展を実



施しております。またこの様な企画がありましたら協力させていただきますので、よろしくお願ひします。

(東北地区担当理事 佐藤民雄)

**駒沢公園を走りませんか**

「2023グリーンリボンランニングフェスティバル」が、10月9日(月・祝)に東京・駒沢オリンピック公園で開催されます。移植医療を受けた方や障がい者、一般ランナーと一緒に楽しく走り、移植医療に対する正しい知識・理解を深めるイベントです。骨髄バンクPRランナーを募集します。8月24日(木:先着順)までに全国協議会事務局へ。詳しくは当協議会ホームページをご覧ください。

各地のたより

各地のたよりを  
写真を添えて  
お寄せください。

北海道

ドナー休暇導入企業が  
骨髄バンク講演会と登録会を開催



6月14日の講演

6月14日(水)、北海道苫小牧市の株式会社小金澤組(小金澤昇平社長)の安全大会の場で骨髄バンクについての講演をさせていただき、また、その1週間後の6月21日(水)には同社で献血併行ドナー登録会も行われました。

(株)小金澤組は、苫小牧市に本社を置く土木や建築などを手がける建設会社です。同社の安全大会は、労働安全の取り組みなどを全体のテーマとして毎年開催されるものですが、今年は骨髄バンクを個別テーマの一つとして取り上げていただきました。

奈良

「私たちが繋ぐ  
命のリレー 2023」参加報告



6月10日(土)、日本青年会議所奈良ブロック協議会主催のイベントにて「私たちが繋ぐ命のリレー

2023」が開催されました。私は骨髄バンクの説明員として参加しました。献血の支援と、白血病や骨髄バンクへの理解と協力を呼び掛ける取り組みで、多くの方が献血と骨髄バンクへのドナー登録を行って下さいました。

会場は、奈良県宮馬見丘陵公園という、季節の花が鑑賞できる観光地としてたいへん有名なところです。当日は花菖蒲がちょうど見頃で、見物に訪れていた方が多数いらっしゃいました。そこに、特設ステージが準備され、落



6月21日の苫小牧骨髄バンク推進会による献血併行登録会

骨髄バンクをテーマとして選んだのは、同社の社員に実際に造血幹細胞の提供をされた方がいて、その際の通院や入院などの経験を踏まえ、会社の社会貢献の一環として昨年12月にドナー休暇制度を導入したことから、この制度を社員の方に活用してもらうためにも骨髄バンクや骨髄提供のことをきちんと知ろうという思いからのことでした。

このドナー経験者の方、実は10年ほど前に当時2歳のお子さんが白血病を発症し、骨髄バンクを通じて骨髄提供を受け元気になったことをきっかけにドナー登録をされ、昨年、末梢血幹細胞を提供されたとのことでした。

当日は、会場の苫小牧市労働福祉センターで、この社員の方も含め同社と同社協力企業の社員合わせて100人を超える方々を前に、骨髄バンクのしく

みやドナー登録・提供などの基本的なこと、千葉県木更津市の川西歩実ちゃんの紹介を通じて新規ドナー登録の重要性、コーディネート終了理由のデータに基づくドナー休暇制度の重要性などについて、パワーポイントスライドを使いながら約1時間ほど話をさせていただきました。講演中、この社員の方から札幌での採取に向けた通院や入院の実際の様子などもお話しいただき、出席された方々には身近なこととして感じていただけたと思います。

また、この講演の1週間後6月21日(水)午後には、苫小牧市ウトナイの同社本社において献血バスによる献血と併せて苫小牧骨髄バンク推進会によるドナー登録会が行われ、同会の矢嶋翼会長から「わずか半日で8の方がドナー登録をしてくださいました」とうれしい連絡がありました。

私たちは、「真に患者の役に立つ骨髄バンクの実現」のため、北海道内でのドナー登録推進に加えて、ドナー休暇制度の導入促進を大きな目標の一つに掲げ、道医務業務課と連携しながら経済界や労働界に働きかけを続けています。(北海道骨髄バンク推進協会 島山茂房)

語・音楽・ダンスなどの披露、約20台のキッチンカーの集結もあり、非常に賑わい、若い方の骨髄バンクへのドナー登録に繋げることができました。

また、子どもが遊べるキッズエリアや芝生の上でくつろげるスペースも設けられており、親子連れの皆さんもたくさん来場されていました。そのような方々に対して働き掛けも行うことができましたので、将来世代へも骨髄バンクへの支援や理解に繋がる活動がで

きたものと思います。

奈良県内では近年、日本青年会議所の皆さんが主催する催事に、献血バスと骨髄バンクの啓発活動を提案していただけるが増えました。私達の活動が広がってきており、うれしいことです。これからも様々なイベント等に誘っていただけるよう、引き続き取り組んでいきたいと思っています。

(なら骨髄バンクの会 小笹晃子)

心からのご寄付に感謝申し上げます ●6月21日～7月20日(敬称略)

●一般	●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金	株式会社	マルト商事	
骨髄バンクチャリティー麻雀大会実行委員会	福崎 勝利 現金 22,000円		現金	74,347円
現金 80,000円	小野塚 照直 現金 10,000円	株式会社	ナルックス	
むさし野アンサンブルグループ	本田 真奈美 現金 5,000円		現金	44,500円
現金 14,000円	塩谷 泰人 現金 1,000円	株式会社	フクヤ	
高遠 勲 現金 30,000円	●志村大輔支援基金		現金	24,065円
藤波 敬子 現金 10,000円	アオヤマ ナナ 現金 1,000円	長昌寺	現金	15,841円
村上 真司 現金 10,000円	●募金箱		●つながる募金	
匿名 現金 20,000円	株式会社 クスリのアオキ		現金	15,300円
匿名 現金 1,000円	現金 1,125,413円			

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655 郵便振替口座 00150-4-15754

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会